

銀行

1. 評価対象企業（13 社）

【主要銀行】（5 社）

三菱 UFJ フィナンシャル・グループ、りそなホールディングス、
三井住友トラストグループ、三井住友フィナンシャルグループ、
みずほフィナンシャルグループ

【地方銀行】（7 社）

しずおかフィナンシャルグループ、めぶきフィナンシャルグループ、
横浜フィナンシャルグループ、西日本フィナンシャルホールディングス、
千葉銀行、群馬銀行、ふくおかフィナンシャルグループ

【専門銀行】（1 社）

ゆうちょ銀行

（証券コード協議会銘柄コード順）

2. 評価方法等

（1） 評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価 項目(注)数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	3	25
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	5	25
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	1	5
④ESG に関連する情報の開示	ESG 関連	6	33
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的情報開示	2	12
計		17	100

（注）具体的な評価項目の内容および配点は後掲。

（2） 評価実施アナリストは 21 名（所属先 20 社）である。（氏名等は後掲）

3. 評価結果

（1） 総括（「ディスクロージャー評価比較総括表」は後掲）

- ① 本年度は、主に ESG 関連の項目数・内容、配点を見直した。このため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は 81.6 点（昨年度 79.1 点）、総合評価点の標準偏差は 5.1 点（昨年度 4.9 点）であった。
- ② 5 つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点〈以下省略〉）を見ると、経営陣の IR 姿勢等が 80%（昨年度同率）、説明会等が 83%（昨年度 80%）、フェア・ディスクロージャーが 83%（昨年度 79%）、ESG 関連が 82%（昨年度 79%）、自主的情報開示が 82%（昨年度 77%）となった。
- ③ 評価項目（全 17 項目）について見ると、次の 12 項目（経営陣の IR 姿勢等の中の 1 項目(a)、説明会等の中の 4 項目(b)・(c)・(d)・(e)、フェア・ディスクロージャーの項目(f)、ESG 関連の中の 4 項目(g)・(h)・(i)・(j)、

自主的情報開示の2項目(k)・(l)が、平均得点率で80%以上となり、高水準であった。

- (a) 「IR部門への経営資源の配分は充実していますか。また、IR部門に十分な情報が集積されており、IR担当者と有益なディスカッションができますか。投資家の期待や懸念を理解し、それに応えていますか」(平均得点率83%〔昨年度81%〕)(得点率(評価点/配点<以下省略>)：60%台1社・70%台2社・80%台9社・90%台1社)
- (b) 「投資家の関心に沿った適時適切な開示がされていますか」(平均得点率82%〔昨年度78%〕)(得点率：70%台2社・80%台11社)
- (c) 「事業セグメント別・プロダクト別等、財務の分析に必要なデータは、継続性を保つかたちで十分に開示・説明されていますか」(平均得点率85%〔昨年度82%〕)(得点率：70%台2社・80%台10社・90%台1社)
- (d) 「事業または財務・規制上のリスク情報の開示が十分になされていますか」(平均得点率85%〔昨年度82%〕)(得点率：70%台2社・80%台9社・90%台2社)
- (e) 「決算の説明資料は、業界のベスト・プラクティスを反映した必要十分な内容ですか」(平均得点率85%〔昨年度82%〕)(得点率：70%台2社・80%台10社・90%台1社)
- (f) 「イベント等のリモート開催、動画配信、質疑応答等のトランスクリプト提供、英文開示等、公平な情報提供に十分な配慮がされていますか。また、投資家にとって重要と判断される事項の開示は、遅滞なく、十分に行われていますか」(平均得点率83%〔昨年度79%〕)(得点率：70%台3社・80%台8社・90%台2社)
- (g) 「資本政策(資本コスト、資本配賦、規制対応等を含む)、成長投資、株主還元策が十分に説明されていますか」(平均得点率82%〔昨年度79%〕)(得点率：60%台2社・70%台2社・80%台8社・90%台1社)
- (h) 「中・長期経営計画(市場目線に即したROEなど目標とする経営指標等)を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が、十分に説明されていますか」(平均得点率85%〔昨年度78%〕)(得点率：70%台2社・80%台10社・90%台1社)
- (i) 「コーポレートガバナンス・コードについて、進捗状況を含め十分に説明がなされていますか」(平均得点率91%〔昨年度84%〕)(得点率：80%台2社・90%台11社)
- (j) 「社外取締役の関与について、実効性評価も含め、十分な開示と説明がなされていますか。社外取締役と株式市場の間で理解が深まるような取組みをしていますか」(平均得点率81%〔昨年度77%〕)(得点率：60%台2社・70%台1社・80%台9社・90%台1社)
- (k) 「決算説明会、IR部門とのミーティング以外の子会社説明会、事業部門説明会、施設見学会等について、投資家の関心を踏まえて実施していますか。また、その際の実説明資料等が充実し、かつ十分に開示されていますか」(平均得点率82%〔昨年度73%〕)(得点率：60%台1社・70%台2社・80%台8社・90%台2社)
- (l) 「統合報告書、ディスクロージャー誌、説明会などにおいて、経営の長期的課題に対する取組みと成果を投資家にわかりやすく伝えていますか」(平均得点率82%〔昨年度80%〕)(得点率：70%台4社・80%台7社・90%台2社)

(2) 上位3企業の評価概要

第1位 三井住友フィナンシャルグループ (ディスクロージャー優良企業(3回連続7回目)、

総合評価点88.2点〔昨年度比+2.5点〕)

- ① 同社は、経営陣のIR姿勢等(得点率(以下省略)87%)、説明会等(87%)、ESG関連(89%)、自主的情報開示(90%)が第1位、フェア・ディスクロージャーが第2位(90%)となった。昨年度に比べて、5分野全てにおいて得点率が改善した。
- ② 経営陣のIR姿勢等においては、「IR部門の機能・姿勢」が最も高い評価(91%)となった。これに関連して、少人数ながら質の高いIR活動を展開しており、市場から説明を求められている事項を網羅的に開示するとともに、取材時にも十分な説明を行っている点を評価する声が寄せられた。また、IR部門と経営陣の距離が近く、必要な情報が十分に集積されていることから、有意義な対話が可能である点や、国内有数のIR体制に加え海外IRも充実している点を評価する声があった。また、「経営陣のIR姿勢」(88%)も最も高い評価とな

った。これに関連して、経営トップが決算説明会や各種開示を通じて経営方針を明確に発信し、市場から説明を求められている事項を網羅的かつ定量的に分かりやすく説明している点を評価する声が寄せられた。また、国内外の投資家との対話に積極的に取り組み、市場との活発なコミュニケーションを実践している点を評価する声があった。なお、資本活用や海外戦略に関するさらなる説明の充実を望む声もあった。このほか、「IRの基本スタンス」に関連して、自社の課題やネガティブな情報についても積極的に開示し、高い透明性を確保している点を評価する声があった。

- ③ **説明会等**においては、「説明会、インタビューにおける開示（連・短の両決算）」の4項目のうち、「事業セグメント別・プロダクト別等、財務の分析に必要なデータは、継続性を保つかたちで十分に開示・説明されていること」が最も高い評価となり、「投資家の関心に沿った適時適切な開示がされていること」および「事業または財務・規制上のリスク情報の開示が十分になされていること」も同得点第1位となった。また、「説明資料等（短信およびその付属資料を含む）における開示」も最も高い評価となった。これらに関連して、説明会や決算説明資料を通じて網羅的かつ継続的に丁寧な説明が行われているほか、グループ構造や資本管理の分かりやすい説明、中期経営計画期間における部門別利益見通しのウォーターフォール形式での開示、KPIを積極的に設定・開示する姿勢を評価する声が寄せられた。また、情報開示全般が充実している点を評価する声があった。なお、業務粗利益や経費のエンティティ別開示、主要子会社のPL・BS開示、アジア出資先会社の四半期業績開示、Inorganic投資に関する情報開示のさらなる充実を望む声があった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**の「イベント等のリモート開催、動画配信、質疑応答等のトランスクリプト提供、英文開示等、公平な情報提供に十分な配慮がされていること。また、投資家にとって重要と判断される事項の開示が、遅滞なく、十分に行われていること」は第2位となった。これに関連して、市場から求められている情報を迅速かつ正確に開示していることに加え、イベントのリモート開催、動画配信、質疑応答のトランスクリプト提供、英文開示など、公平な情報提供に十分配慮している点を評価する声が寄せられた。
- ⑤ **ESG関連**においては、6項目全てについて最も高い評価（同得点第1位を含む。）となった。これらに関連して、ESGに関する幅広いテーマについて丁寧な情報開示を行っている点を評価する声があった。また、人材戦略説明会の開催や、社会的価値の創造を含むサステナビリティに関する積極的な情報開示と取組みを評価する声が寄せられた。さらに、これらの取組みは市場からより高く評価されるべきとの声もあった。
- ⑥ **自主的情報開示**においては、2項目共に同得点第1位となった。充実していたイベントとして、IR Dayを挙げる声が多かった。社外取締役が参加したサステナビリティ説明会や人的資本経営に関する説明会を評価する声もあった。また、充実していた資料として、統合報告書を挙げる声が多く寄せられた。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第2位 三菱UFJフィナンシャル・グループ（総合評価点 86.8点〔昨年度比+2.4点〕、昨年度第2位）

- ① 同社は、フェア・ディスクロージャーが第1位（92%）、経営陣のIR姿勢等（85%）、説明会等（86%）、ESG関連（87%）が第2位、自主的情報開示が同得点第2位（89%）となった。昨年度に比べて、5分野全てにおいて得点率が改善した。
- ② **経営陣のIR姿勢等**においては、「経営陣のIR姿勢」が同得点第2位となった。これに関連して、市場が求める情報が網羅的に開示されており、経営陣による明快で分かりやすい説明や、経営トップが投資家の声を踏まえて柔軟にメッセージを見直す姿勢、新社長およびCFOによる安定感のある説明を評価する声が寄せられた。なお、事業ポートフォリオ改革や資本配分に関する説明のさらなる充実を望む声があった。「IR部門の機能・姿勢」も同得点第2位となった。これに関連して、市場が求める情報が網羅的に開示され、取材時にも十分な説明がなされていることに加え、充実したIR体制と高い投資家コミュニケーション力を評価する声が寄せられた。なお、IR部門の人員体制は充実している一方、他のメガバンクと比較して責任者の任期がやや短いとの指摘があった。
- ③ **説明会等**においては、5項目全ての得点率が改善した。このうち、「説明会、インタビューにおける開示（連・短の両決算）」の4項目については、「主な連結子会社、関連会社の損益、財務および資本関係等の状況が十分に説明されていること」が最も高い評価となったほか、「事業セグメント別・プロダクト別等、財務の分析に必要なデータは、継続性を保つかたちで十分に開示・説明されていること」が同得点第2位となった。また、「説明資料等（短信およびその付属資料を含む）における開示」も同得点第2位となった。これらに関連して、決

算説明会資料やディスクロージャー誌は業界内でも充実度が高く、説明会や資料を通じて網羅的かつ継続的に丁寧な情報開示が行われていることに加え、子会社・関係会社の損益やグループ業績への寄与に関する分かりやすい説明を評価する声が寄せられた。細かな開示を維持しながら大括りの視点で理解しやすい説明の工夫を評価する声もあった。なお、業務粗利益や経費のエンティティ別開示、主要子会社の PL・BS 開示のさらなる拡充を望む声があった。また、決算説明会資料については継続性がある一方で、四半期ごとの特徴や戦略の進捗、将来への期待感がより伝わる説明の充実を望む声もあった。このほか、部門別開示や資本配賦に関するさらなる高度化を望む声や、アジア戦略における定性的な内容も含めた定期的なアップデートを望む声があった。

- ④ **フェア・ディスクロージャー**の「イベント等のリモート開催、動画配信、質疑応答等のトランスクリプト提供、英文開示等、公平な情報提供に十分な配慮がされていること。また、投資家にとって重要と判断される事項の開示が、遅滞なく、十分に行われていること」は最も高い評価となった。これに関連して、市場から求められる内容について、迅速かつ正確な情報開示が行われていることに加え、リモート開催、動画配信、質疑応答のトランスクリプト提供、英文開示などを通じた公平な情報提供への十分な配慮を評価する声が寄せられた。なお、質疑応答 (Q&A) トランスクリプトのより早期の開示を望む声があった。
- ⑤ **ESG 関連**においては、昨年度と比較可能な 5 項目中 4 項目について得点率が改善した。このうち、「コーポレートガバナンス・コードについて、進捗状況を含め十分な説明がなされていること」は同得点第 1 位、「人的資本に関する情報開示」が第 2 位、「資本政策、株主還元策の開示」および「目標とする経営指標等」は同得点第 2 位となった。このほか、「社外取締役の関与について、実効性評価も含め、十分な開示と説明がなされていること。社外取締役と株式市場の間で理解が深まるような取組みをしていること」は同得点第 2 位であった。これらに関連して、ESG に関する開示は、環境・社会・ガバナンスの各要素を幅広く網羅し、サステナビリティレポートを含めて充実かつ丁寧な情報開示が行われていることを評価する声があった。**Human Capital Report 2025** は分かりやすく、人的資本に関する開示の充実を評価する声や、日英同時開催を含む社外取締役との対話機会の取り組みを評価する声が寄せられた。なお、社外取締役とより踏み込んだ対話を期待する声があった。
- ⑥ **自主的情報開示**においては、「統合報告書、ディスクロージャー誌、説明会などにおいて、経営の長期的課題に対する取組みと成果を投資家にわかりやすく伝えること」が同得点第 1 位、「決算説明会、IR 部門とのミーティング以外の子会社説明会、事業部門説明会、施設見学会等について、投資家の関心を踏まえて実施すること。また、その際の説明資料等が充実し、かつ十分に開示されていること」は第 3 位となった。充実していたイベントとして、Investors Day を挙げる声が多くあった。また、充実していた資料として、統合報告書を挙げる声が多く寄せられた。

第 3 位 みずほフィナンシャルグループ (総合評価点 85.8 点 [昨年度比+3.0 点]、昨年度第 4 位)

- ① 同社は、**自主的情報開示**が同得点第 2 位 (89%)、**説明会等** (85%)、**フェア・ディスクロージャー** (88%)、**ESG 関連** (87%) が第 3 位、**経営陣の IR 姿勢等**が同得点第 4 位 (84%) となった。昨年度に比べて、5 分野のうち**経営陣の IR 姿勢等**を除く 4 分野において得点率が改善した。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「**経営陣の IR 姿勢**」が同得点第 2 位となった。これに関連して、経営トップが市場との距離を縮めながら対話を深め、市場から求められる内容を網羅的に説明していることを評価する声が寄せられた。また、自社の特長や強みを踏まえた成長戦略が分かりやすく示されていることを評価する声や、説明の軸が明確で一貫性を持ちながらニュアンスも含めて伝えるコミュニケーション力を評価する声があった。このほか、経営改革の進捗について継続的な情報発信を行い、透明性向上への姿勢が定着していることを評価する声や、経営陣と IR 部門の連携が良好であり、投資家との対話を重視した情報発信を評価する声も寄せられた。「**IR 部門の機能・姿勢**」は第 4 位となった。これに関連して、市場から求められる内容が網羅的に開示され、取材時にも十分な説明が行われていることを評価する声があった。また、IR 部門の企業価値向上や市場評価改善に対する高い意識を評価する声や、IR 部門と経営陣の距離が近く、十分な情報が集積されていることで、投資家との有意義な対話を実現していることを評価する声が寄せられた。なお、説明内容そのものは有益であるものの、情報の説明の仕方についてさらなる充実を望む声があった。「**IR の基本スタンス**」に関連して、経営陣が IR 活動に積極的に取り組み、ネガティブな情報についても積極的に開示する高い透明性と信頼性を評価する声があった。また、自社の強みの説明に加え、リスク要因に関する説明のさらなる充実を望む声もあった。
- ③ **説明会等**においては、5 項目中 4 項目の得点率が改善した。「説明会、インタビューにおける開示 (連・短の

両決算)」のうち「投資家の関心に沿った適時適切な開示がされていること」が同得点第1位、「事業セグメント別・プロダクト別等、財務の分析に必要なデータは、継続性を保つかたちで十分に開示・説明されていること」が同得点第2位となった。また、「説明会資料等（短信およびその付属資料を含む）における開示」が同得点第2位となった。これらに関連して、説明会や決算説明資料において、継続的かつ丁寧な説明が行われるとともに、詳細なデータまで開示されていることを評価する声が寄せられた。また、自社の強みを分かりやすく訴求する構成や、資本配分およびCET1運営方針に関する明確な説明を評価する声があった。なお、業務粗利益や経費のエンティティ別開示、事業別データのさらなる拡充を望む声や、自社の差別化要因について実績数値を用いたより具体的な説明を望む声があった。このほか、戦略投資について納得感のある定量的な説明の充実を望む声や、競争が激化するマスリテール領域における経営戦略について、より詳細な説明を望む声もあった。

- ④ **フェア・ディスクロージャー**の「イベント等のリモート開催、動画配信、質疑応答等のトランスクリプト提供、英文開示等、公平な情報提供に十分な配慮がされていること。また、投資家にとって重要と判断される事項の開示が、遅滞なく、十分に行われていること」は第3位となった。これに関連して、市場から求められる内容について、迅速かつ正確な情報開示が行われていることを評価する声が寄せられた。また、イベントのリモート開催、動画配信、質疑応答トランスクリプト提供、英文開示などを通じて、公平な情報提供に十分な配慮していることを評価する声があった。なお、質疑応答（Q&A）トランスクリプトのより早期の開示を望む声もあった。
- ⑤ **ESG 関連**においては、昨年度と比較可能な5項目中4項目について得点率が改善した。このうち、「コーポレートガバナンス・コードについて、進捗状況を含め十分な説明がなされていること」が同得点第1位、「資本政策、株主還元策の開示」、「目標とする経営指標等」および「社外取締役の関与について、実効性評価も含め、十分な開示と説明がなされていること。社外取締役と株式市場の間で理解が深まるような取組みをしていること」は同得点第2位、「人的資本に関する情報開示」は同得点第3位となった。このほか、「環境・社会に関する情報開示」は第2位であった。これらに関連して、ESGに関する情報開示について、環境・社会・ガバナンスの全ての要素を網羅し、丁寧な開示が行われていることを評価する声が寄せられた。また、社外取締役ミーティングや社外取締役パネルディスカッションにおいて、興味深い論点が提示され、有益な対話の機会が提供されていることを評価する声があった。このほか、人的資本レポートで示されている企業風土改革が着実に進展していることを評価する声に加え、さらに積極的な情報発信を望む声もあった。また、資本政策や経営目標に関する説明の充実度を評価する声があった。
- ⑥ **自主的情報開示**においては、「決算説明会、IR部門とのミーティング以外の子会社説明会、事業部門説明会、施設見学会等について、投資家の関心を踏まえて実施すること。また、その際の説明資料等が充実し、かつ十分に開示されていること」が同得点第1位となり、昨年度に比べて得点率が大きく改善した。「統合報告書、ディスクロージャー誌、説明会などにおいて、経営の長期的課題に対する取組みと成果を投資家にわかりやすく伝えること」は第3位となった。充実していたイベントとしては、MIZUHO IR Day 2025を挙げる声が多く寄せられた。特に、部門横断的な視点から複数のカンパニー長が事業戦略を説明するなど、事業ごとの戦略が理解しやすい運営上の工夫を評価する声が寄せられた。また、充実していた資料としては、統合報告書を評価する声が多く寄せられた。特に、ビジネスポートフォリオ変革、CIB強化、人的資本投資、GX/DX戦略の進捗など、長期的な経営課題への取組みと成果を分かりやすく説明している点を評価する声があった。

以 上

2026年度 ディスクロージャリー評価比較総括表（銀行）

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示		3. フェア・ディスク ロージャー		4. ESGに関連する 情報の開示		5. 各業種の状態に即した 自主的な情報開示		前回 順位
			評価項目3 (配点 25点)		評価項目5 (配点 25点)		評価項目1 (配点 5点)		評価項目6 (配点 33点)		評価項目2 (配点 12点)		
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	8316 三井住友フィナンシャルグループ	88.2	21.8	1	21.8	1	4.5	2	29.3	1	10.8	1	1
2	8306 三菱UFJフィナンシャル・グループ	86.8	21.3	2	21.6	2	4.6	1	28.6	2	10.7	2	2
3	8411 みずほフィナンシャルグループ	85.8	20.9	4	21.2	3	4.4	3	28.6	2	10.7	2	4
4	5831 しずおかフィナンシャルグループ	83.6	20.9	4	21.0	5	3.9	11	27.7	4	10.1	4	6
5	7186 横浜フィナンシャルグループ	83.5	20.8	6	21.1	4	4.2	6	27.4	5	10.0	5	3
6	8331 千葉銀行	81.6	19.9	9	20.7	8	4.1	7	27.1	7	9.8	6	10
7	8334 群馬銀行	81.4	21.1	3	20.8	7	4.3	4	25.9	10	9.3	10	5
8	8309 三井住友トラストグループ	81.1	19.2	10	20.6	9	4.3	4	27.2	6	9.8	6	8
9	7167 めぶきフィナンシャルグループ	80.6	20.2	7	20.2	11	4.1	7	26.5	9	9.6	9	7
10	8308 りそなホールディングス	80.0	18.9	11	20.6	9	4.0	10	26.8	8	9.7	8	9
11	7182 ゆうちょ銀行	79.8	20.2	7	20.9	6	4.1	7	25.7	11	8.9	11	11
12	7189 西日本フィナンシャルホールディングス	72.3	18.5	12	19.1	12	3.7	12	23.0	13	8.0	13	12
13	8354 ふくおかフィナンシャルグループ	70.4	16.1	13	18.9	13	3.7	12	23.1	12	8.6	12	13
	評価対象企業評価平均点	81.60	20.03		20.70		4.17		26.90		9.80		

2026年度の具体的評価項目および配点（銀行）

【評価期間：2025年7月～2026年6月】

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス（25点）	配点
(1)経営陣のIR姿勢	
・経営トップが決算説明会、統合報告書等において経営方針等を十分に説明していますか。IR部門と十分にかつ双方向で情報を共有していますか。投資家の期待や懸念を理解し、それに応えていますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	12
(2)IR部門の機能・姿勢	
・IR部門への経営資源の配分は充実していますか。また、IR部門に十分な情報が集積されており、IR担当者とは有益なディスカッションができますか。投資家の期待や懸念を理解し、それに応えていますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	8
(3)IRの基本スタンス	
・会社にとって都合の悪い情報（リスク、不祥事等）や自社の弱点についても、積極的に開示する姿勢が見られますか。	5
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示（25点）	配点
(1)説明会、インタビューにおける開示(連・単の両決算)	
①投資家の関心に沿った適時適切な開示がされていますか。	5
②事業セグメント別・プロダクト別等、財務の分析に必要なデータは、継続性を保つかたちで十分に開示・説明されていますか。	5
③事業または財務・規制上のリスク情報の開示が十分になされていますか。	5
④主な連結子会社、関連会社の損益、財務および資本関係等の状況は十分に説明されていますか（合併・統合・提携・買収による業績貢献・進捗状況を含む）。	5
(2)説明資料等（短信およびその付属資料を含む）における開示	
・決算補足の説明資料は、業界のベスト・プラクティスを反映した必要十分な内容ですか。	5
3. フェア・ディスクロージャー（5点）	配点
・イベント等のリモート開催、動画配信、質疑応答等のトランスクリプト提供、英文開示等、公平な情報提供に十分な配慮がされていますか。また、投資家にとって重要と判断される事項の開示は、遅滞なく、十分に行われていますか。	5
4. ESGに関連する情報の開示（33点）	配点
(1)資本政策、株主還元策の開示	
・資本政策（資本コスト、資本配賦、規制対応等を含む）、成長投資、株主還元策が十分に説明されていますか。	7
(2)目標とする経営指標等	
・中・長期経営計画（市場目線に即したROEなど目標とする経営指標等）を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が、十分に説明されていますか。	6
(3)コーポレート・ガバナンス	
①コーポレートガバナンス・コードについて、進捗状況を含め十分に説明がなされていますか。	3
②社外取締役の関与について、実効性評価も含め、十分な開示と説明がなされていますか。社外取締役と株式市場の間で理解が深まるような取組みをしていますか。	5
(4)環境・社会に関する情報開示	
・環境・社会に関する情報、定量目標を開示し、中長期的な取組みを適切に開示していますか。	6
(5)人的資本に関する情報開示	
・人的資本に関する情報開示は、経営戦略とリンクする形で十分になされていますか。また、会社独自のKPIや人的資本に関する投資の定量的成果（財務的成果等）について開示がされていますか。	6
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示（12点）	配点
①決算説明会、IR部門とのミーティング以外の子会社説明会、事業部門説明会、施設見学会等について、投資家の関心を踏まえて実施していますか。また、その際の説明資料等が充実し、かつ十分に開示されていますか。【過去1年間を目安に評価】 【充実していた説明会等名をコメント欄に記入して下さい】	6
②統合報告書、ディスクロージャー誌、説明会などにおいて、経営の長期的課題に対する取組みと成果を投資家にわかりやすく伝えていますか。 【充実していた資料名・取組事例等をコメント欄に記入して下さい】	6

銀行専門部会委員

部 会 長	高宮 健	野村證券
部会長代理	鮫島 豊喜	SBI 証券
	長坂 美亜	モルガン・スタンレー MUFG 証券
	花岡 宏行	JP モルガン・アセット・マネジメント
	藤原 重良	SOMPO アセットマネジメント
	松野 真央樹	みずほ証券
	藪谷 和子	シュローダー・インベストメント・マネジメント

評価実施アナリスト（21名）

幾代 孝四郎	大和アセットマネジメント	長坂 美亜	モルガン・スタンレー MUFG 証券
今井 雅	アセットマネジメント One	丹羽 孝一	UBS 証券
上迫 和也	三井住友トラスト・アセットマネジメント	花岡 宏行	JP モルガン・アセット・マネジメント
川崎 朝映	岩井コスモ証券	終 宏二	QUICK
坂田 喜彦	SBI 岡三アセットマネジメント	藤原 重良	SOMPO アセットマネジメント
坂本 昂平	大和証券	松田 健	大和証券
佐藤 雅彦	SMBC 日興証券	松野 真央樹	みずほ証券
佐野 滉介	第一生命保険	峯嶋 利隆	ニッセイアセットマネジメント
鮫島 豊喜	SBI 証券	矢野 貴裕	JP モルガン証券
高宮 健	野村證券	藪谷 和子	シュローダー・インベストメント・マネジメント
戸田 浩司	りそなアセットマネジメント		

（注）上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。